

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	<p>自動車整備士を養成し、官・民共に未整備である自動車整備環境を整備する。併せて整備教官を養成し、養成機関の自立を図る。</p> <p>(ア) 市民研修生 15 名及び教官養成研修生 10 名の中に 1 名の落伍者も無く、研修は計画通り進捗している。</p> <p>(イ) 教官養成研修生は、高度な整備知識や技術実習のもと、市民研修生に対する教育実習訓練により、教官としての指導スキルが日々向上している。</p>
(2) 事業内容	<p>(ア) 市民研修生 15 名、および DIT 助手 4 名を含む教官養成研修生 10 名は、共に前半の研修を計画通り終了し、順調に研修は進捗している。</p> <p>(イ) 教官養成研修は、3 級整備士の復習から 2 級整備士の高度な内容や教育実習に至るまで、計画に沿った研修が行われている。</p> <p>(ウ) 国立人材開発機関(INDIMO)の責任者や専門家グループが、自動車整備士資格制度策定の参考目的で研修現場を見学したり、我々からは資格制度に関するアドバイスや作成教材の提供を行う等、相互交流に基づいた支援を継続中である。</p> <p>(エ) 5 月に第 1 回目のワークショップを DIT 校で開催し、約 150 名の参加者に対して安全点検や日常整備指導を実施した。</p> <p>(オ) 第 3 期事業終了時に全期統合 OB 会の開催を予定しており、その準備に向け、第 1 期と第 2 期および第 3 期の各 OB 会名簿作成や、全員に対して統合 OB 会への参加を呼び掛け中である。</p>
(3) 達成された効果	<p>(ア) a. 第 3 期の直接裨益者数は、市民研修生 15 名および教官養成研修生 10 名であり、当初計画を達成している。</p> <p>b. 市民研修生および教官養成研修生に 1 名の落伍者も無く、在籍率 100%を堅持している。</p> <p>c. 教官養成研修生は DIT 助手(教官要員) 4 名全員参加しており、また他の一般市民の基礎技術保有者(整備工場等在職者) 6 名は共に熱心に研修しており、将来自動車整備士教官として、人材育成に従事する目標は十分達成確実な状況にある。</p> <p>(イ) 第 3 期事業開始時に、JDRAC 撤退後の自主運営に関して DIT 校長の確約を取り、また DIT 助手の教官教育も計画通り進行中の為、本研修終了後に DIT の職業訓練コースとして自立する目標は、達成可能な状況にある。</p>

	<p>(ウ) DIT が毎年 15 名の自動車整備士を養成する目標に対しては、現在、教育技法や研修運営のノウハウを DIT 助手に指導中であり、また教育機材は完備しており、目標達成の可能性は極めて高い。</p> <p>(エ) 国立人材開発機関(INDIMO)の2度に渡る見学来訪に合わせて意見交換会を開催し、日本の整備士資格制度アドバイスや教育資料等を提供した結果、彼らが策定中の整備士国家資格制度に反映させるとの返答と謝礼があり、資格制度を国会審議に掛ける為の準備促進と改善支援を実現した。</p> <p>(オ) 第1回ワークショップをDIT校で開催し、目標100名に対してそれを上回る150名の来場者を迎え、日常点検や簡易整備の重要性を指導する事で、事故の未然防止と間接的な裨益効果の拡大を図った。</p> <p>(カ) 全期統合OB会の組織化を今期末に計画しており、各期の卒業生が互いに助け合える団体設立を目指し、第1期と第2期の卒業生全員に直接連絡して卒業生名簿の更新を図ると共に、確認出来ない者に対しては全OBが協力して情報収集する体制を整えた。</p>
(4) 今後の見通し	<p>(ア) 目標達成に向け計画に沿った事業展開が行われており、特に支障となる問題は無い。</p> <p>(イ) 市民研修生に対しては、研修の総仕上げとして自動車整備工場実習を計画しており、職場の体験学習と共に、就職機会確保の場としての活用を図る。</p> <p>(ウ) 国立人材開発機関(INDIMO)による自動車整備士国家資格が、我々のアドバイスや提供資料をもとに改良され、今年の国会で資格制定に向け審議される見通しである。</p> <p>(エ) 教官養成研修生は、上級レベルの学科や実技学習に加えて教育実習の機会を増やし、また、教育技法や工場管理等の専門教育は、教官教育の総仕上げ的位置付けとして研修最後に計画通り実施する事で、来年度からのDIT自動車整備士コースの自主運営実現や、各職場での人材育成能力を高める予定である。</p> <p>(オ) ワークショップに関しては、7月末に第2回目および9月に第3回目の開催を予定している。</p>